

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300051		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム まちぐるみ		
所在地	〒022-0003 大船渡市盛町字町3-1		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	令和3年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は商店街の中心に立地し、普段の買い物などに入居者と一緒に出掛けたり、町内の行事などを見物・参加したりと地域交流や社会参加がしやすい環境にある。入居者の居室は全室トイレ・洗面台付きの個室で、家族と一緒に宿泊できるようになっている。個々に使い慣れた家具などを持参され在宅での生活が継続できるよう全人的なケアに取り組んでいる。
入居者の、生活の時間軸に沿った一人ひとりの生活記録を細かく記した24時間シートを充実させ、職員全体で共有し、パーソナルケアの実践をする。また、ご家族を巻き込み、もっと深くパーソナルケアを追求するとともに、本人の「現在の心の向き」「何を望んでいるのか、どうしたいのか等」を把握し、今年のテーマ「やるなら今でしょ」と設定し、実現に向けたお手伝いを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛町商店街の中央に位置し、3階建てビルの1階にある。2・3階は同法人の地域密着型介護老人福祉施設となっている。初代の理事長の福祉にかけける熱い思いの理念を継承し、「すべては愛から始まる」を基とした理念を掲げ実践している。地域との繋がりが強く、例年なら夏祭り、七夕行灯祭り、小学生の太鼓の発表会などに施設前の広場を開放して町内会近隣との交流も活発に行っている。食事は併設事業所の栄養士のアドバイスを心得、ご当地メニューの日と称して、沖縄のソーメンチャンプルを提供したり、テイクアウトの日はずき家の牛丼などで楽しんでいる。コロナ禍による外出制限にあつて、少しでも外食の気分をと、職員の工夫配慮が感じられる。介護計画では24時間シートを基に、細やかに寄り添うパーソナルケアを目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで法人理念、事業所理念を唱和し、ユニット内にも掲示しながら日々の入居者の対応など様々な場面で理念にもとづいた対応ができるよう意識づけを行っている。	事業所の理念は、法人理念と地域密着型サービスの役割を踏まえ、独自に作られている。朝の職員ミーティングで法人理念と事業所理念、基本の挨拶を唱和し取り組み意識の共有を図っている。令和3年度のテーマを「やるなら今でしょ」として、入居者の思いの把握に努めながらパーソナル・ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が持てない状況であるが、普段であれば地域の夏祭り、小学校、こども園のイベントで敷地を開放したり、イベントに参加、交流を行っている。	コロナ禍で交流機会が持てない状況にあるが、街中という立地を活かし、地域のイベントに敷地を開放しながら、参加、交流を行っている。令和3年は、小学校のマラソン大会が再開し、事業所の駐車場をメイン会場として使用しているほか、地元高校太鼓部の発表の場として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成30年より地域の「市日」に介護相談所として参加しており、健康に関する相談や介護方法相談される方や、認知症の人の理解や支援の方法の情報を提供しているがコロナにて休止中。また事業所の広報誌を家族関係機関など100部以上を発行している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様の代表、市役所の長寿社会課、商店街代表、公民館長、居宅支援事業所に委員をお願いしている。書面での開催が続いているが、入居者の状況(生活活動、入退居の状況)を報告し広報誌や日常生活の様子を写真付きの資料で説明している。	委員会では、入居者の状況や活動を報告しながら意見等をいただいている。コロナ禍のため、令和2年度以降、本年4月、6月、8月まで書面開催としていた。感染状況が落ち着いてきたので、この10月の委員会は、参集しての開催を予定している。	書面開催の場合を含め、委員の幅広い意見や提言を事業所の運営に活かしていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の実状を報告しながら、助言をいただいたり、介護保険制度についての確認を行ったりと日ごろから相談、報告、連絡がしやすい関係づくりに努めている。	市担当者とは、相談や報告、連絡をしやすい関係づくりに努め、介護保険の適用についての助言・指導を得ている。書面開催の運営推進会議資料を持参等し、運営状況報告を行いながら助言をいただいている。市が主催する関係事業所との連絡会議に参加し、災害時初動対応の在り方を確認している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規程で身体拘束を禁止しており、事業所内での研修を行いながら、転倒リスク、外出リスクなどの十分な危険予知のもと入居者に自由に過ごしていただけるケアの方法を検討しながら対応している。玄関の施錠に関しては防犯の目的とした夜間帯のみとしている。	転倒リスクなどの危険予知のもと、入居者に自由に過ごしていただけるケアの方法を検討しながら支援している。帰宅願望が強い入居者の場合、家族に電話ができる環境を整え職員と一緒に対応し、解消している。夜間にあっても、入居者の呼び声、見回り、習慣的行動への予測対応などで支援しており、センサー使用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設理念である「尊厳の保持」と密接な関係事項であるため、管理者が常に注意を払っている。法人マニュアルを確認しながら職員相互でチェックしあう仕組みを作っている。また、職員がストレスを溜め込まないようなんでも話し合う関係づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している入居者はいないが、対象となる入居者が発生した場合には本人、家族に円滑に支援できるよう研修会や情報収集を行い理解、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は詳細な説明を行い、家族の理解や納得を確認したうえで契約を行っている。改定時には書面や電話、面会などの来所のタイミングで説明と理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様も参加していただき、ご意見を聞く機会を設けている。コロナの影響で面会が制限される中、SNS(特にLINE)で暮らしぶりを発信したり、ビデオ電話での面会などを行い、その際に意見、要望を伺っている。	本人が、管理者や職員・外部の人に、意見や思いを伝えられる機会づくりができており、意思疎通が困難な方には、表情や仕草・動作の変化を見て意向を推察し配慮している。家族がコロナ禍の影響で面会が制限されているため、面会に代えてLINEやビデオ電話を活用し、家族から意見、要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、蔵ハウス大船渡との合同職員会議を開催しており、管理者・職員の意見交換を通じて、職員の直の声を伝え対応している。	管理者は、朝のミーティングのほか、同じ建物の地域密着型特養職員との合同会議で、現場の情報を得ている。必要な支援を柔軟に提供するために、職員と一緒に話し合いながら支援の仕方など調整している。また、職員との個人面談を年度末に行い、職員の要望等を把握するよう努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	超過勤務が発生しないよう、随時業務の見直しを図りながら、職員相互の声掛け連携しサポートできるよう努めている。また、希望公休を配慮することで、職員のプライベートの時間を充実できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を含めた内部研修への参加や、認知症介護実践研修、リーダー研修への参加、資格取得への支援、また職員自らが研修資料を作成することで自身のスキルアップと情報の共有を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会、ブロック定例会などの外部研修に参加した際、ネットワーク作りや活動の情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族、施設・病院の担当者、居宅ケアマネから得た情報をもとに本人との面談を行い実態把握をするようにしている。実態調査は限られた時間の為、入居後は改めて調査の確認と状況把握が深められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者に一律な対応をするのではなく、個々に柔軟な対応をすることをお伝えし、入居初期の不安な点は家族と共有しながら、不安の軽減や要望への対応ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際は大きな環境の変化に伴う為、今後の変化の予測や、リスクについてご家族に説明できるよう支援している。入居初期については細かな観察を行い相談を受けた際は他職種や、関係機関、ご家族との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の想いを共感し、理解するよう努め、職員は入居者の生活のお手伝いをするというスタンスで接している。また、入居者の「できる事」を見極め食事作りや、買い物、掃除、洗濯などの活動を通じて入居者同士の関係を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や広報誌、SNSを通じ暮らしの状況をお知らせしている。職員にとっては困難と思える事例でも、実は家族にとっては簡単なことだったりもするため、三位一体の関係性が構築できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会が制限される中、オンラインを活用した行事への参加を呼びかけ、普段は面会に来ることが難しい遠方の家族にも画面を通じて暮らしぶりを伝えることができるよう支援している。	入居前の面接で馴染みの場や関係を聴き取っている。以前は喫茶店に行ったり、お彼岸にはお墓参りに行く入居者もいたが、コロナ禍により、家族との外出や面会が制限されているため、オンラインを活用し生活ぶりを伝えたり、家族に行事への参加を呼び掛けている。職員は、通院の帰りに入居者と一緒に以前住んでいた家を廻ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や相性に配慮しながら食事や、レクリエーションの席を配置しているが、日によって変化することもあり、職員が間に入り支援するよう努めている。家事を一緒に行ったり役割分担を作ることで入居者同士が支えあうことができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時や入院時、また移動先の施設などに情報提供を行い、移動先での生活がスムーズに移行できるよう連携に努めている。移動後もご家族には「いつでも困ったことがあったら相談を」と伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に暮らしをしていくうえでの希望や意向を聞き取りしているが、支援の過程でその把握ができることも多く、入浴や休憩中などのマンツーマンでの会話の中で入居者の想いを聞き出せるように努めている。	入居者との懇談会や入浴、調理作業など暮らしのなかで、会話をしながら思いを聴き出すようにしている。お花畑に行きたいとか、化粧をしたいなどのお話が出る。少人数の馴染みの関係を活かして、一人一人の思いや暮らし方の希望などの意向の把握に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に健康状態、家族状況、身体状況、生活史などを把握し「今までの生活の継続」につなげられるようアセスメントを実施している。入居後どのような生活を送りたいか希望、要望を伺うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し24時間シートを作成し日々の1日の暮らし方、過ごし方を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの思いや希望、要望を伺い、担当者会議にて課題を明らかにしている。ケアの方針について話し合い、介護計画に反映している。ご家族には面会時や、電話連絡などで意見、要望を聴取している。	計画作成担当者が介護計画原案を作成し、職員カンファレンスを経て、利用者や家族の了解を得ている。思いや意向の情報は、24時間シートにまとめ、介護プランに反映されている。「明るい色の服とスカート履かせてほしい」などの家族の意向も介護計画に盛り込んで支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケース記録などを共有し、介護計画を再立案する際に見直しを行っている。身体状況の変化に応じて計画の変更を行い情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の懇談会のほかにも、入居者の日々の会話の中からもニーズを推察し柔軟に対応している。また、併設事業所との連携を図りながら対応することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域の方との交流を控えている状態である。限られた場所になるがバスハイクや移動図書館の活用や美容師の訪問を受けて散髪などを行っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本としているが、大半の方が法人の嘱託医に主治医として診てもらっている。専門医の受診が必要な場合は紹介状をいただき適切な医療が受けられるよう支援している。また併設事業所の看護師とも連携をとれる体制を作っている。	入居者は、入居前から近所にある協力医療機関を利用している。協力医療機関は、法人の嘱託医でもあり、夜間や急変時の対応のほか、コロナ禍でのオンライン診療も行っている。内科以外の専門医の受診が必要な場合は、紹介状をいただき必要な医療を受けている。受診介助は職員が対応しているが、特別な場合には家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所では看護師の配置はなく体調の変化があった場合は併設事業所の看護師に相談、援助が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は安心して治療に専念していただく為、医療機関への情報提供を行い、面会や病棟看護師、ケースワーカーを通じて入院中の生活を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について入居時に当施設で可能なこと、不可能なことを説明している。また看取りの支援を希望される段階で、本人やご家族の希望・要望を伺いながら医療機関とも協力して支援している。	入居時に重度化した場合の方針や終末期の在り方について家族に説明し、了解を得ている。協力医は、急変時対応や看取り対応も行っている。日常の健康管理は、併設事業所の看護師が適時に対応している。重度化した場合には、家族と話し合い医療機関への入院や特別養護老人ホームへの住み替えのほか、事業所での看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成。目の届くところへ配置しており、内部研修を行いながら知識、判断、技術、報告など身につけ実践力の向上に努めている。		

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、併設事業所と合同で火災・地震・津波・水害といった様々な災害を想定し防災訓練を実施している。近隣には同法人の居宅介護支援事業所も立地し、有事の際協力体制がとれるよう訓練に取り入れている。	毎月1回、併設事業所と合同で火災、津波など様々な災害を想定して防災訓練を実施している。津波や洪水の場合は2階以上への垂直避難を行い、火災の場合は駐車場を避難場所とし、発災時と同様の避難訓練を行なっている。事業所の建物は、福祉避難所になっている。法人内事業所間で災害時対策に関する職員の協力体制が出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念「人としての尊厳を守り、大切にす	パーソナルケアの実践に取り組んでおり、入居者のその人らしい姿を大切にしている。生活歴や職業歴を踏まえ、言葉の使い方も入居者に合わせている。丁寧な言葉遣いも他人行儀ではなく、たまに方言を交えて話し掛けることもある。居室からリビングを見たい入居者もあり、ドアと薄い暖簾、厚い暖簾など、それぞれである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で話しやすい環境づくりに努め個々の思いを受け止めすべての場面で利用者自身が選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に希望や思いを伺い個々のペースを最優先しており、起床、就寝、食事の時間帯は本人の気分や体調などに合わせ可能な限り本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に一緒に衣類を選んだり、身だしなみを整えている。化粧品を持参されているときは声掛けや支援を行っている。また月に1回美容師の訪問があり散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の状況や、個々への聞き取りで好みを把握している。また、ご当地メニューや手作り昼食・夕食、手作りおやつなどで、下ごしらえ・調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にしている。外食も制限があるためテイクアウトのメニューを取り入れ個々に好きなものを選択できる機会を作っている。	職員は、毎日の摂食状況や好みを把握している。献立は利用者の好みを考慮し併設事業所の栄養士のアドバイスも得ながら作成し、三食とも職員が調理している。入居者は、下ごしらえ、調理、盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。コロナ禍ならではの、テイクアウトを取り入れて食事を楽しんでいる。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日30品目の食材を摂取できるよう努めている。個々の食事を把握し摂取量の記録を行っている。また状態に合わせた食事形態で提供することもある。献立は、併設事業所の栄養士にアドバイスをいただき担当を決めた職員が作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや一部介助など個々に合わせたケアを実施している。歯や口腔内に不具合があれば協力の歯科医、または希望の歯科医との連携・受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通して排泄間隔の把握を行い、声掛け・誘導の目安としている。また、排泄の意思表示ができない方は、そのサインが察知できるよう職員での情報を共有している。	水分、食事の摂取状況や排泄チェック表を通して排泄間隔の把握を行い、声掛け、誘導の目安としている。習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。排泄の意思表示ができない方には、「座っていた人が立ち上がって歩き始める」などの排泄に関するサインを察知し、職員で情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸飲料の取入れや、毎食の野菜の取入れ、水分量、運動習慣を考慮しながら便秘予防に努めている。状況によって医師に相談し個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を目安に、希望があれば随時対応している。また、拒否があった場合は時間や日をずらして対応している。普段は入浴剤を使用しているが、菖蒲湯やゆず湯などを取り入れ季節を感じていただいている。	入浴は週2、3回を目安に、希望があれば随時対応している。入浴を嫌がる方には、言葉がけや対応の工夫、時間や日をずらし、一人一人に合わせた入浴支援を試みている。浴槽には、リフト機器が設置されており、自力入浴が困難な方でも支援できるようになっている。季節を感じる菖蒲湯やゆず湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	掛け布団は季節に合わせて重量・軽量を使い分けし週1回リネン交換を行い気持ちよく眠れるよう支援している。また、思い思いの場所で寛いでいただけるよう、リビングや、廊下、共同スペースにソファ、テレビなど配置している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法や用量、副作用の理解に努め管理に徹底している。個々に顔写真付きの袋に小分けし、複数の職員でチェックを行い、服薬時にお名前を読み上げ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や力量に合わせ調理、洗濯たみ、園芸、裁縫などの支援を行っている。個々の趣味活動として習字クラブ、フラワーアレンジメント、押し花クラブなどを取り入れ気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては、コロナ禍に伴い制限されており、下車の無いドライブを行っている。施設前庭にて野外食やビアガーデン、室内での縁日行事など出掛けられなくても雰囲気を楽しんでいただけるイベントを取り入れている。	目標達成計画を作成し、利用者の意向に沿った外出を最終目標としながら取り組んでいる。下車の無い車内だけでのミニドライブを行ったり、施設前庭での野外食やビアガーデン、室内での縁日行事など、雰囲気を楽しめるイベントを取り入れている。家族には、オンラインで行事への参加を呼びかけたり、暮らしぶりを発信している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持している方が1名あり、趣味活動などに使っている。所持されていない方も会話の中で欲しい物や必要な物など確認し、家族と連携している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方が1名、携帯電話を使用している方が2名おり好きな時に電話をしている。また希望があった場合はいつでも電話を掛けられる場所に電話を設置し対応している。はがきや封書を出す方もおり投函の手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節を感じられる花や装飾品と一緒に作り飾っている。照明器具も暖色を多く使用し、落ち着いた色合いで統一している。温度・湿度に合わせて冷房、床暖房を稼働し、扇風機を併用しながら換気ができるよう配慮している。	事業所では、ユニットケアを意識した「しつらえ」を行っている。共有の空間は、入居者にとって不快や混乱を抱くような刺激がないように配慮している。壁面には、季節を感じられる花と一緒に作った装飾品を飾っている。食堂を兼ねたリビングには、テーブルとゆったりとした大きなソファが置かれ、エアコンと床暖房とで温度管理されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔懐かしい曲を掛けたり、アロマなどを使用し寛いでいただけるよう努めている。和室にはこたつ、廊下、リビングにはソファを配置し思い思いの場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ在宅の生活が施設でも続けられるよう、本人・ご家族に促しながら部屋作りをしていたり声掛けを行っている。家具や、写真、本人が取り組んだ作品などが飾れるよう支援している。	在宅での生活を継続できるように、本人、ご家族に声掛けをし、一緒に部屋作りを行っている。入居者は、冷蔵庫やテレビ、タンスや衣装ケースなどを持ち込んでいる。壁面には、本人が取り組んだ作品(習字や塗り絵など)や家族写真等が飾られている。居室の中からリビングを見たい方もおり、薄い暖簾、厚い暖簾など使い分けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差のない空間になっており、床は弾力性のある材質で、手すりも握りやすく設計されている。個々のニーズに応じが自助具や介護用品を利用している方もおり随時検討している。		